

同朋の会基礎講座（全6回）

様々な人々が交流するお寺において、一カ寺一同朋の会の結成と充実、さらには同朋の会を推進することを目的に「6つの課題」をもとに講座を連続して開催してきました。

⑥グリーンケアに学ぶ

日時 2016年5月27日（金）13時～17時

講師 いつつじ ふみあき 五辻 文昭 氏

（ビハーラ大垣代表・大垣教区本浄寺住職）



「グリーンケア」とは主に「身近な人と死別して悲嘆に暮れる人が、その悲しみから立ち直れるようそばにいて支援すること」の意として用いられています。

今回の講座では、ビハーラ活動（※）にたずさわる講師をお招きしグリーンケアについて同朋という視点を大切にしながら共に学んでいきたい。

講師はビハーラ活動を通じ以下のように述べている。

「僧侶が現場でケアに関わることにとどまらず、従来の教化の在り方を見直す意味もある。今までのように、お寺に来てもらい、教義を知らない人に何かを教えるというスタイルではない。悩みを聞き、相手の土俵で基本的に信頼関係をつくること。それは、こちらの死生観が問われることでもある。」

※「ビハーラ」とは、インドの古語であるサンスクリット語（梵語）で「休息・安らぎ（の場所）」「僧院・寺院」を意味します。

その昔、日本では悲田院（ひでんいん）・施薬院（せやくいん）ともいわれ、心を病む人にはお法（みのり）をつたえ、体を病む人には薬をあたえました。お寺は病院や老人ホームの役割を果たし、地域の医療や福祉の拠点でもありました。

現代では、仏教の立場から末期患者とその家族に対する仏教ホスピス、または苦痛緩和と癒しの医療や福祉を考える活動・施設・団体としてこの言葉が用いられています。

具体的には、特定の病院や福祉施設で、診断の初期から終末看護、終末看死の期間において、仏教者と医師、看護職ないしメディカルソーシャルワーカー（医療福祉相談員）などが協働し全人的ケア（身体と精神に対する鎮痛・対話・介助・朗読・訪問・相談・法話など）に取り組む活動が行われています。

【会場：岡崎教区会館 参加費：無料】

主催 真宗大谷派 岡崎教区教化委員会

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町1-1-2 岡崎教区会館

TEL 0564-22-2136 <http://www.okazaki-kyoku.net/>

親鸞基礎講座（全5回）

親鸞基礎講座 『宗祖の生涯に学ぶ』

日時 ①2016年1月14日（木） ②2月1日（月）
③3月1日（火） ④4月13日（水）
⑤5月13日（金） 全て18:30～20:00

講師 あんどう わたる 安藤 弥 氏（同朋大学准教授）



講師からのメッセージ

真宗の基礎を学び直すとすれば、まず宗祖親鸞聖人のご生涯（1173-1262）の歩みを確かめ直し、宗祖がどのような人間的課題と向き合っていて、生きるよりどころとなる教え、浄土真宗の教えに出遇われたのかということについて、問いかけ、学んでいくことが重要だと思います。この問いかけを通じて、私自身が人間としてどのような課題とともに生きていくのか。そのことをご参加の皆さんとともに考えてみたいと思います。

受講者のつぶやき

- ・人間は色々な苦しさに遇う。その時ともに語り合える人、教えに遇って自己を知り心豊かに前進する生活を歩みたい。自力、他力を根（もと）として本願に帰したいと思いました。
- ・私は聞法を始めて1年くらい経ちました。親鸞聖人についてはコーラスの歌や報恩講の時に絵巻物で琵琶を弾いて語られるのを聞いてきました。しかし、時代は京都や親鸞聖人の人間味のあるところなど特に何も考えず聞き流していました。先生のお話を聞き、少しですが身の中に入ってきました。
- ・基礎を学ぶことが本当に大切な学びだと思います。そういう意味で今回の講座は、これまで聴いてきた真宗史や親鸞聖人のご生涯を再度確かめる大切な機会となりました。もっと時間をかけてひとつひとつ聴いていきたいと思いました。